

# 米国経済・金融概況 (2024年12月)

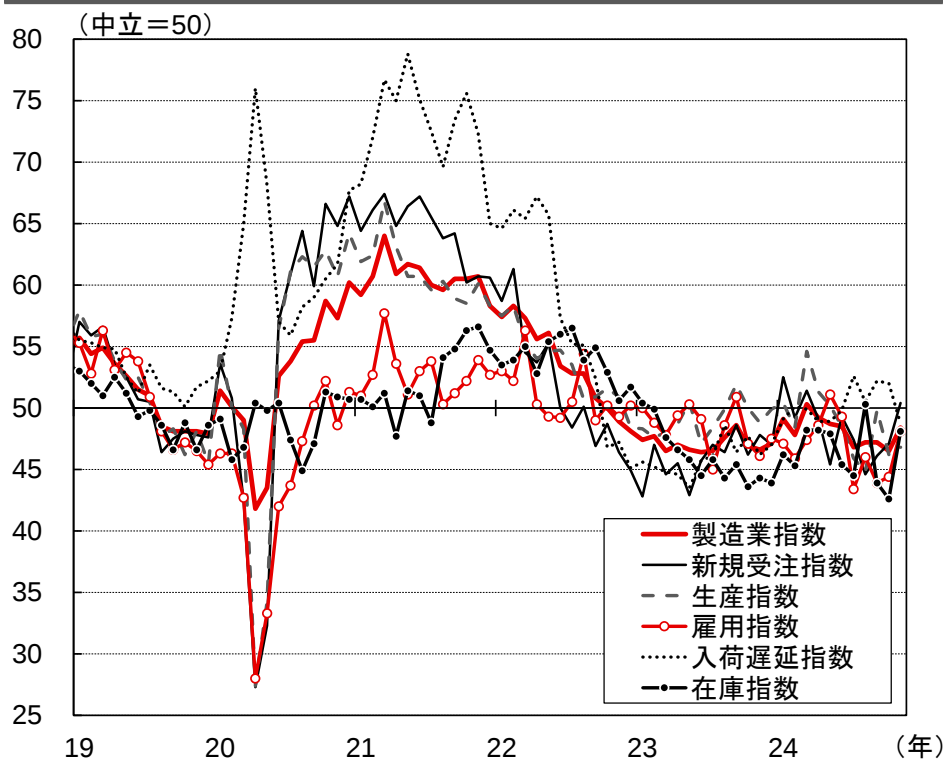
2024年12月27日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

# 1. 企業活動

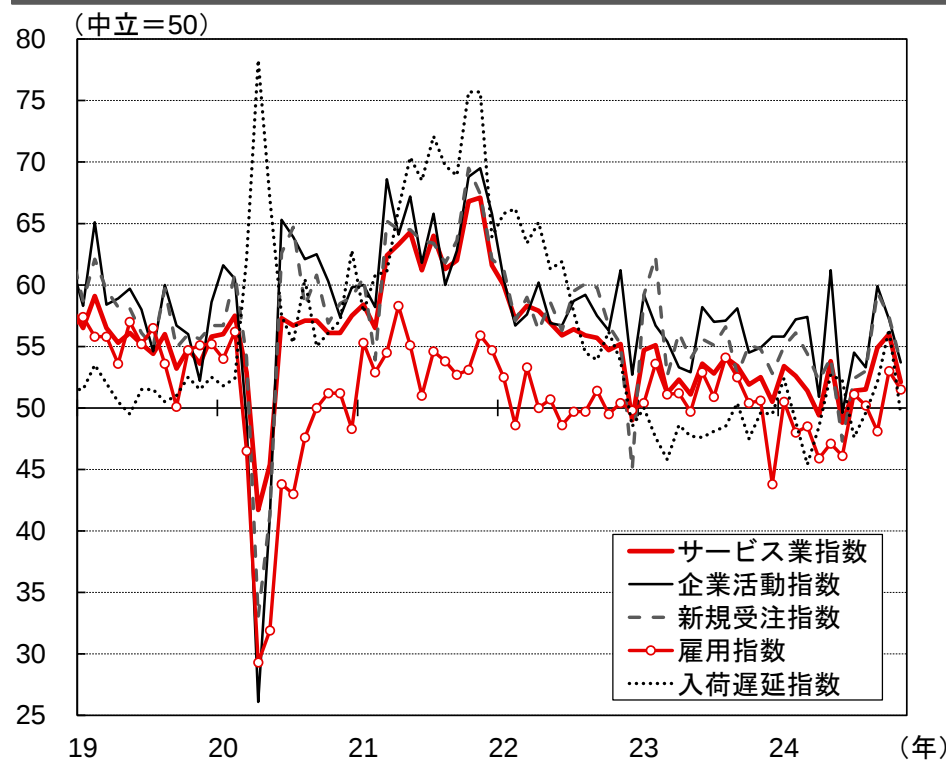
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、11月に48.4(前月比+1.9ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。先行指標の新規受注指数(50.4、同+3.3ポイント)が8ヵ月ぶりに50(中立)を上回ったほか、在庫指数(48.1、同+5.5ポイント)、雇用指数(48.1、同+3.7ポイント)、生産指数(46.8、同+0.6ポイント)がそれぞれ上昇。大統領選挙を終えて企業は来年の計画を準備する中、需要は依然として弱いとISMは指摘。産業別では全18産業のうち3産業が拡大、11産業が縮小、4産業が横這いを報告(10月は5産業が拡大、11産業が縮小、2産業が横這い)。
- 11月のISMサービス業指数(総合指数)は52.1(前月比▲3.9ポイント)と5ヵ月ぶりに低下。入荷遅延指数(49.5、同▲6.9ポイント)、新規受注指数(53.7、同▲3.7ポイント)、企業活動指数(53.7、同▲3.5ポイント)、雇用指数(51.5、同▲1.5ポイント)がいずれも前月から低下。もっとも、産業別では全18産業のうち14産業が拡大を報告し、回答企業のコメントも総じて中立～楽観的であることから、サービス業は持続的な拡大基調にあるとISMは指摘。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

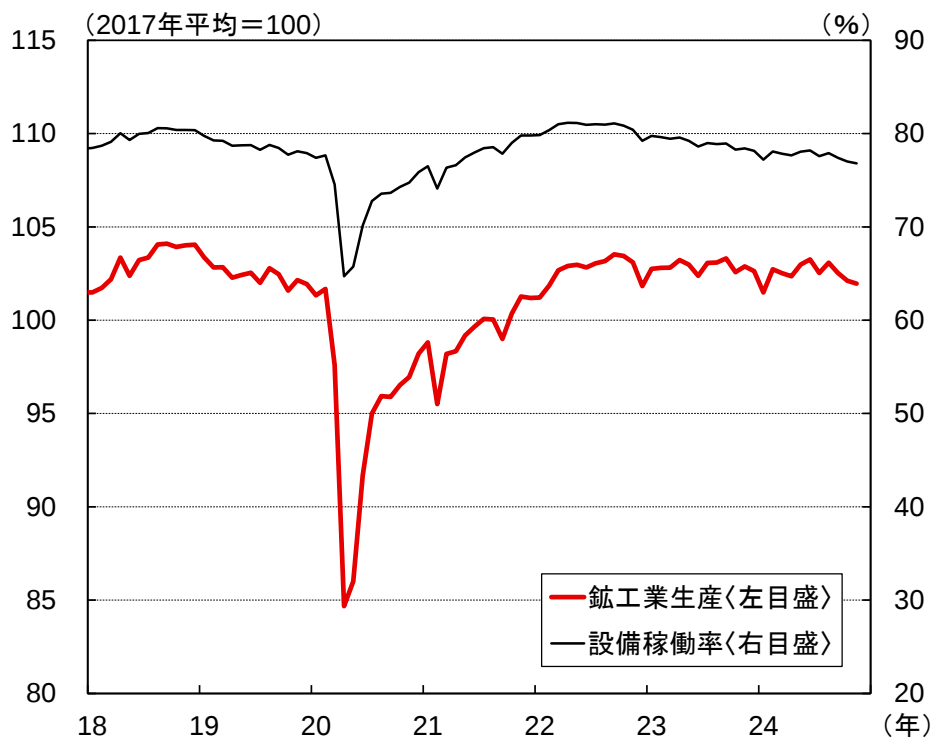


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 2. 生産

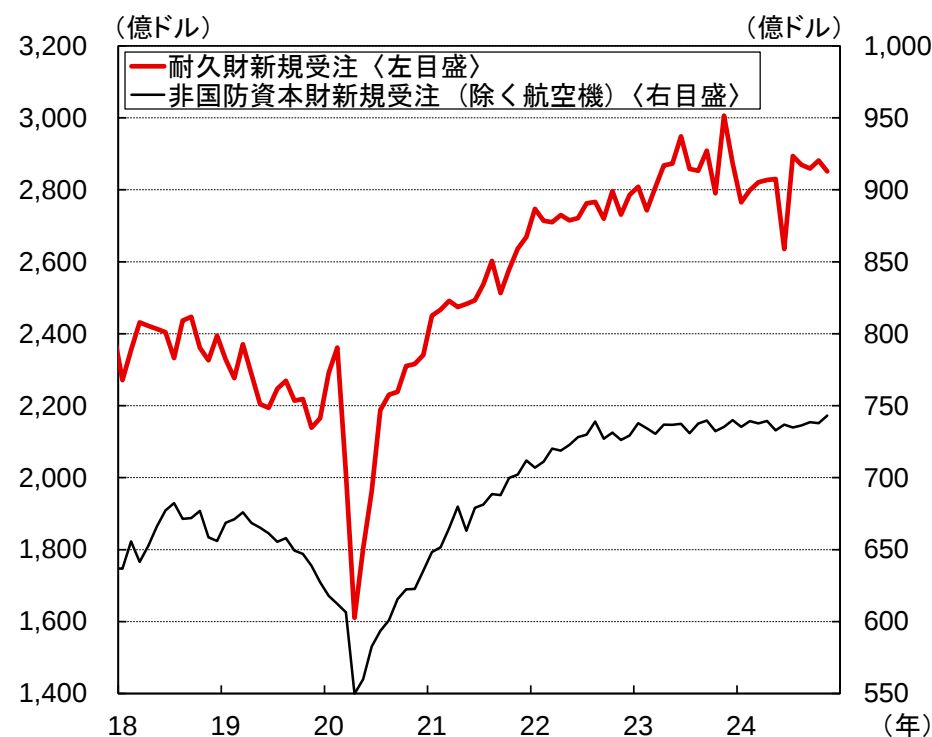
- 11月の鉱工業生産は前月比▲0.1%と3ヵ月連続で減少。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」(同+0.2%)が3ヵ月ぶりに増加した一方、「鉱業」(同▲0.9%)、「公益事業(電気・ガス)」(同▲1.3%)はそれぞれ減少。製造業の内訳をみると、11月上旬までストライキが続いた「航空宇宙・その他輸送機械」は同▲2.6%と3ヵ月連続で減少した一方、「自動車・同部品」(同+3.5%)、「機械」(同+2.1%)等は増加。11月の設備稼働率は76.8%と3ヵ月連続で低下。
- 11月の耐久財受注は前月比▲1.1%と2ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、「輸送用機器」が同▲2.9%と、「民間航空機」(同▲7.0%)の大幅減少により全体を下押し。また、「機械」(同+1.0%)、「一次金属」(同+0.7%)、「電機・家電」(同+0.4%)は増加した一方、「金属製品」(同▲1.6%)、「コンピューター・電子部品」(同▲0.7%)は減少。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.7%と2ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

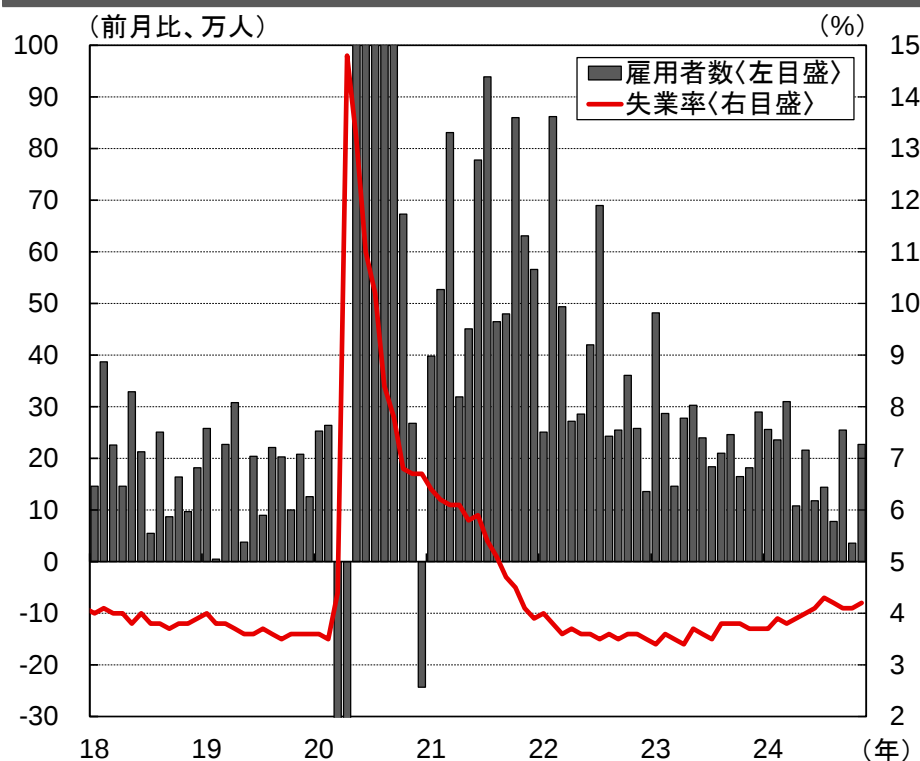


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

### 3. 雇用

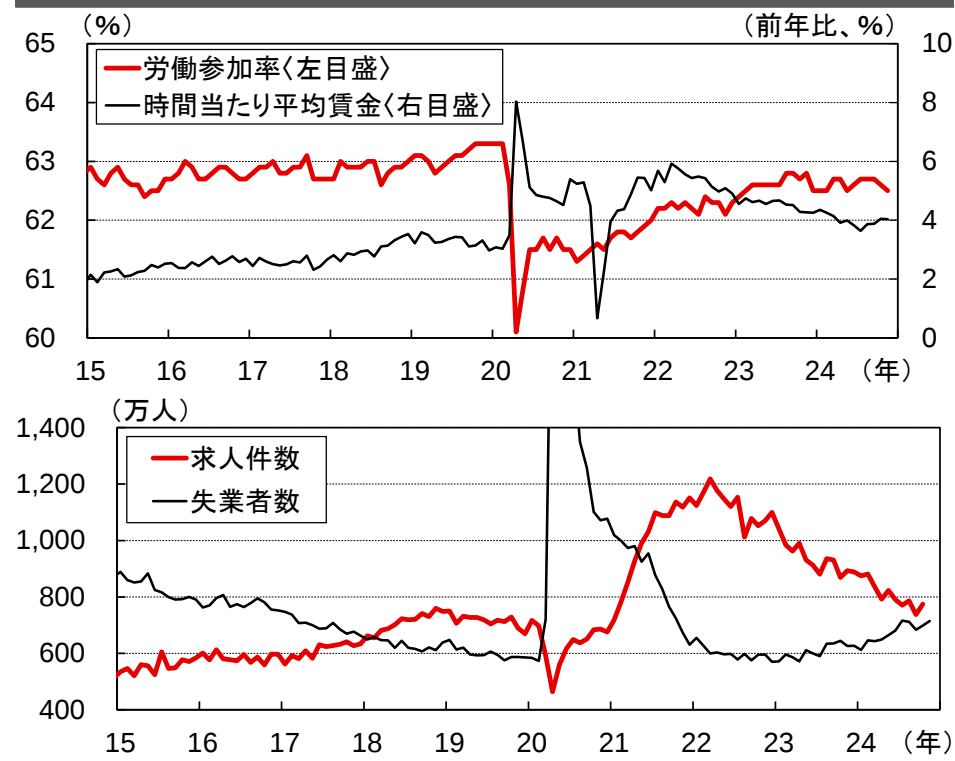
- 11月の非農業部門雇用者数は前月比+22.7万人と、ハリケーン及びストライキの影響で落ち込んだ前月(同+3.6万人、改定値)からの反動で大幅に増加。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+7.2万人)、「レジャー・接客」(同+5.3万人)、「公務」(同+3.3万人)、「専門・ビジネスサービス」(同+2.6万人)、「製造業」(同+2.2万人)等の幅広い業種で増加。一方、「小売業」(同▲2.8万人)は減少。
- 11月の失業率は4.2%(前月差+0.1%ポイント)と前月から悪化、失業者数は714.5万人(前月比+16.1万人)と2ヵ月連続で増加。労働参加率は62.5%(前月差▲0.1%ポイント)と2ヵ月連続で低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.0%と前月から伸びは横這い。
- 10月の求人件数は774.4万件(前月比+37.2万件)と2ヵ月ぶりに増加。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.11倍と前月(1.08倍)から上昇も、パンデミック前の水準(2020年2月:1.22倍)を下回っている。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

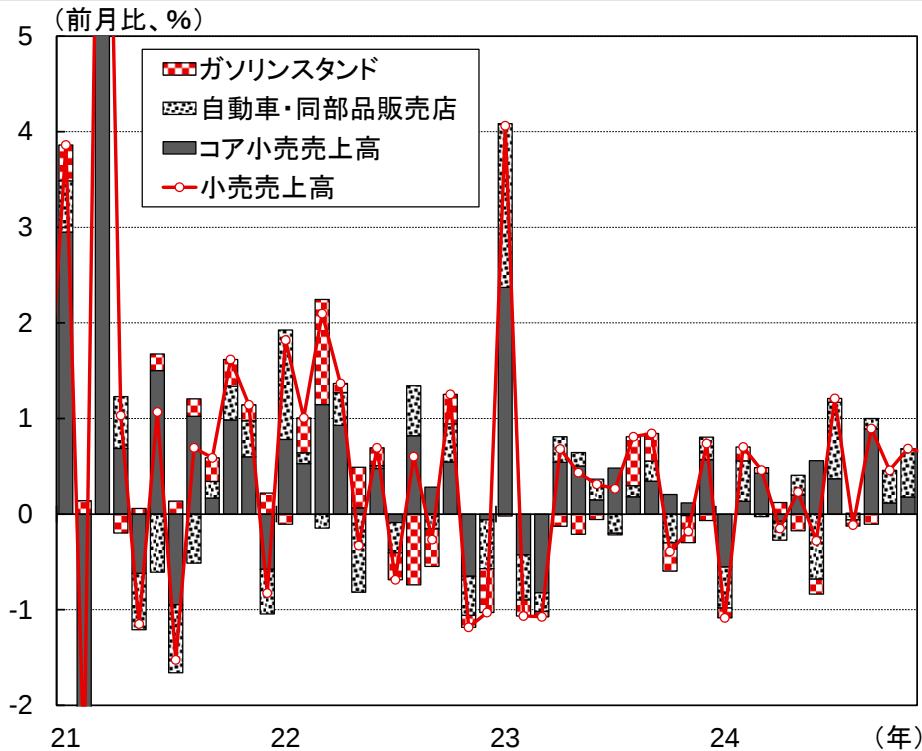


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 4. 個人消費

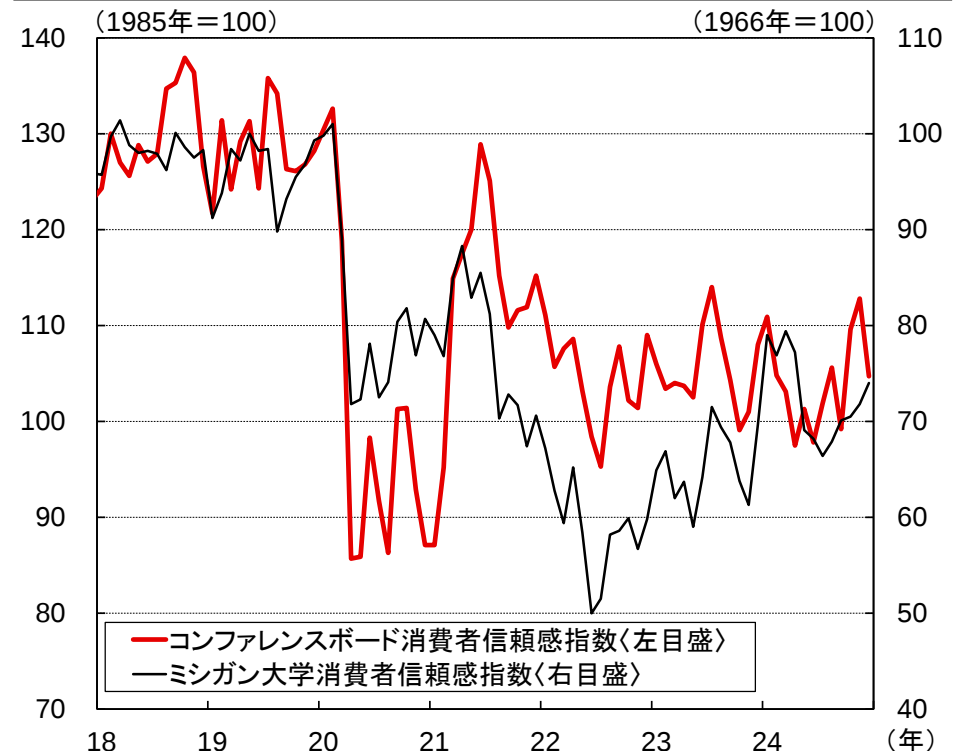
- 11月の小売売上高は前月比+0.7%(10月:同+0.5%、改定値)と3ヵ月連続で増加。また、「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.2%(10月:同+0.2%、改定値)と底堅く推移。業種別にみると、「自動車・部品販売店」(同+2.6%)、「無店舗小売店」(同+1.8%)、「電機・家電販売店」(同+0.3%)等が増加。一方、「飲食店」(同▲0.4%)は8ヵ月ぶりに減少。
- 12月のミシガン大学消費者信頼感指数は74.0(前月比+2.2ポイント)と5ヵ月連続で上昇。一方、コンファレンスボード消費者信頼感指数は104.7(前月比▲8.1ポイント)と3ヵ月ぶりに低下。労働市場の現況に対する評価は改善した一方、将来の景気や所得に対する懸念が高まったとコンファレンスボードは指摘。なお、コンファレンスボードの調査では、次期政権の関税引き上げについて、回答者の46%は生活費が増加すると予想している一方、21%は雇用が増加すると予想。

小売売上高の推移



(資料) 米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移

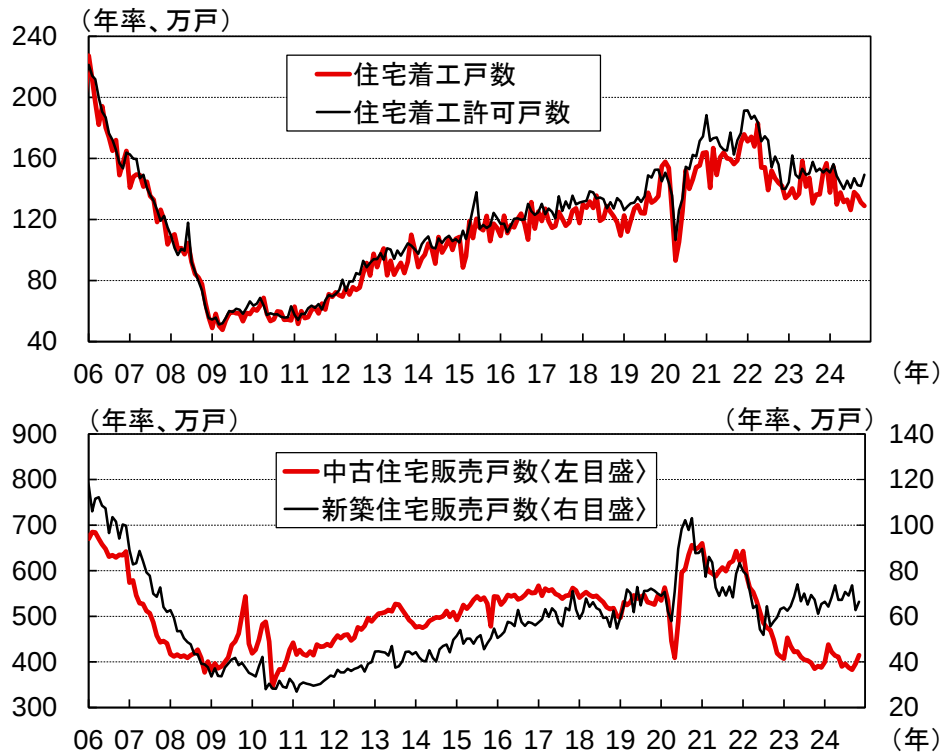


(資料) コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 5. 住宅

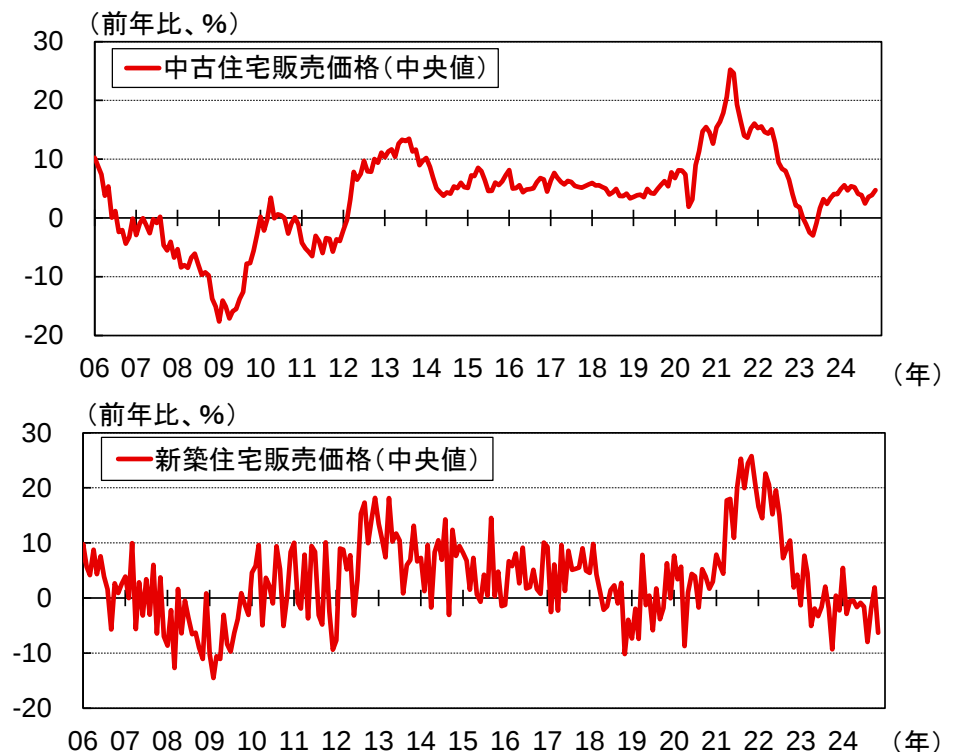
- 11月の住宅着工戸数は前月比▲1.8%の年率128.9万戸(季節調整済)と3ヵ月連続で減少。内訳をみると、一戸建住宅は同+6.4%と2ヵ月ぶりに増加した一方、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同▲24.1%と2ヵ月ぶりに減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同+5.2%の年率149.3万戸(季節調整済)と3ヵ月ぶりに増加。
- 11月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比+4.8%の年率415万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。新築住宅は同+5.9%の年率66.4万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 11月の住宅販売価格は、中古住宅が406,100ドル(中央値)、前年比+4.7%(10月:同+3.9%)と3ヵ月連続で伸びが加速。新築住宅は402,600ドル(中央値)、同▲6.3%(10月:同+1.9%)と2ヵ月ぶりに下落。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 6. 物価

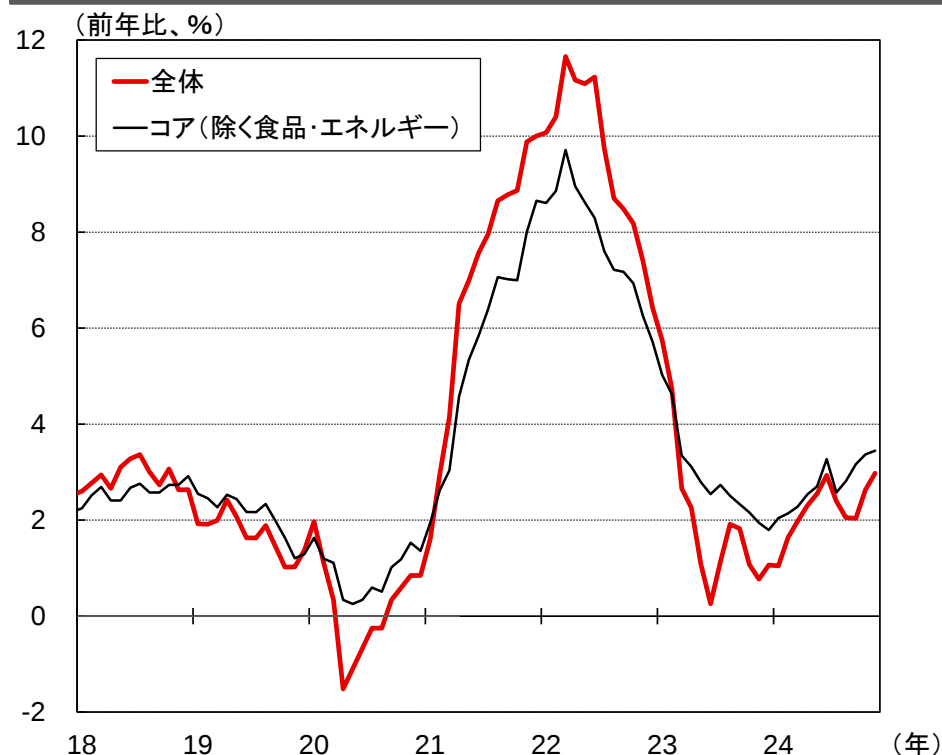
- 11月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.7%(10月:同+2.6%)と2カ月連続で伸びが加速、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.3%(10月:同+3.3%)と前月から伸びは横這い。品目別にみると、「食品」が同+2.4%(10月:同+2.1%)と伸びが加速、「ガソリン」は同▲8.1%(10月:▲12.2%)と下落幅が縮小し、総合指数の伸びを押し上げた。また、コア指数の構成項目のうち、ウェイトの大きい「航空運賃」は同+4.7%(10月:同+4.1%)と伸びが加速、「新車」は同▲0.7%(10月:同▲1.3%)と下落幅が縮小した一方、「住居費」は同+4.7%(10月:同+4.9%)と伸びが鈍化。
- 11月の生産者物価指数は前年比+3.0%(10月:同+2.6%)と2カ月連続で伸びが加速。内訳をみると、「財」は同+1.1%(10月:同+0.2%)、「サービス」は同+3.9%(10月:同+3.8%)とそれぞれ伸びが加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.4%(10月:同+3.4%)と前月から伸びは横這い。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 7. 国際収支

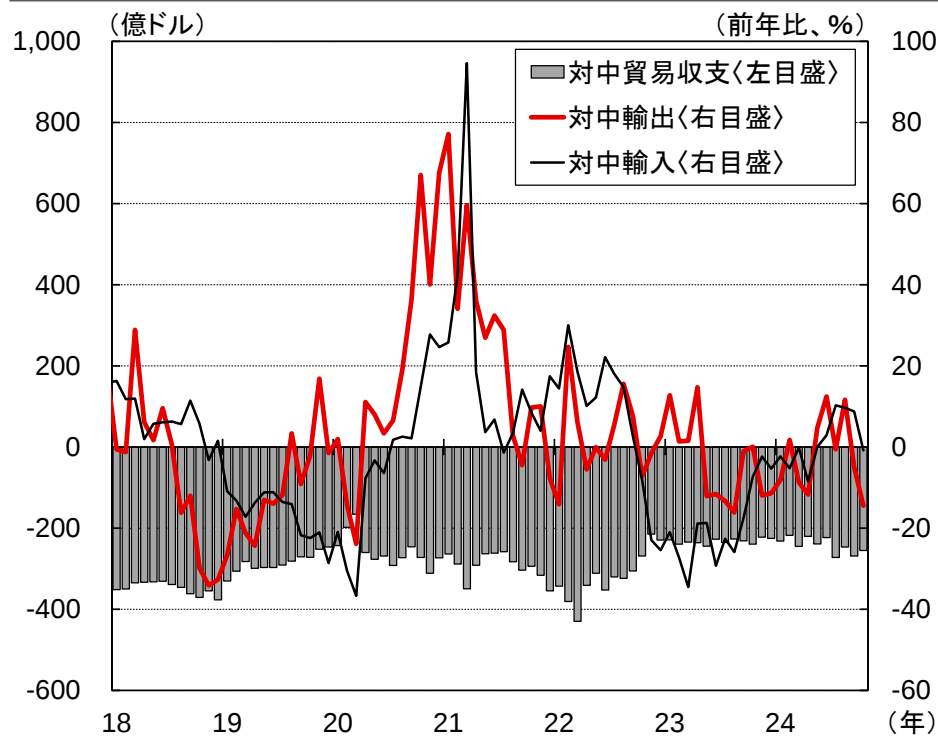
- 10月の貿易収支(財・サービス)は738億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲11.9%(同▲100億ドル)と2ヵ月ぶりに縮小。輸出は同▲1.6%(同▲43億ドル)、輸入は同▲4.0%(同▲143億ドル)。前年比でみると、輸出は+1.9%、輸入は+4.4%。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国は10月に255億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲5.2%(同▲14億ドル)と2ヵ月ぶりに縮小。対中輸出(財)は同▲6.0%(同▲7億ドル)、対中輸入は同▲5.4%(同▲21億ドル)。前年比でみると、対中輸出(財)は▲14.5%と2ヵ月連続で減少、対中輸入は(財)は▲0.8%と6ヵ月ぶりに減少。
- 対EUの貿易収支は171億ドルの赤字(赤字幅は前月比▲28.1%)、対メキシコは154億ドルの赤字(同▲3.9%)。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。  
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。  
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 8. 金融市場動向

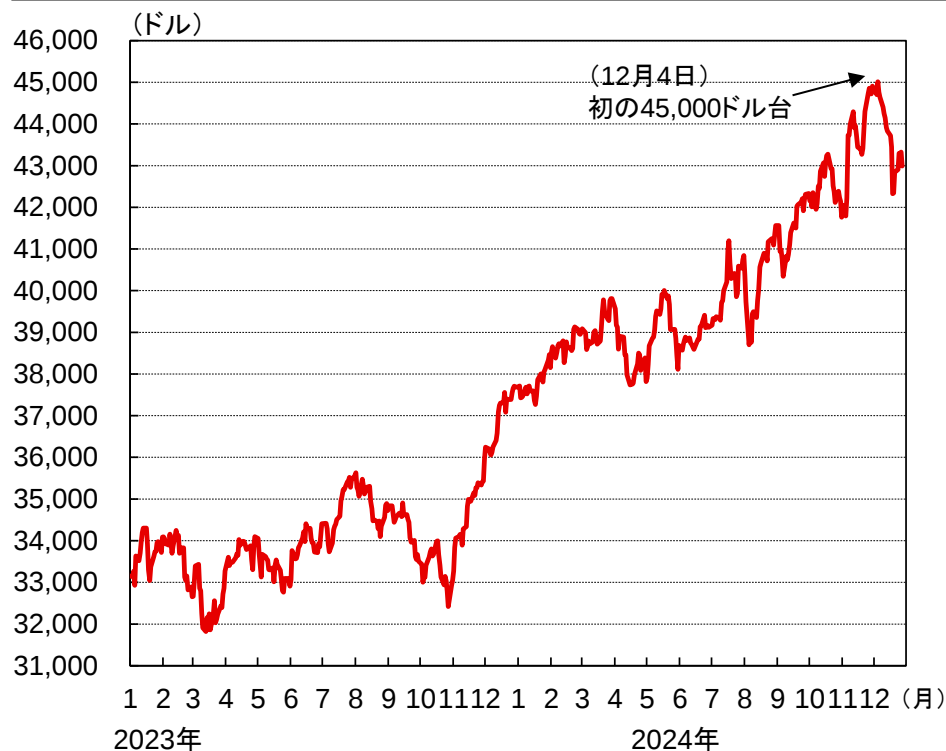
- 10年物国債利回りは、12月6日に公表された雇用統計が予想の範囲内で12月の利下げ観測が強まったことから4.1%台まで低下。その後に公表された物価指標でインフレ圧力の根強さが意識され、12月18日のFOMCでは今後の利下げペースの鈍化が示唆されたことから、10年物国債利回りは4.6%台まで上昇。
- ダウ平均株価は、トランプ次期政権の規制緩和等への期待から12月4日に45,000ドル台に上昇。その後、株価の割高感が意識されるとともに、12月18日のFOMC後には今後の利下げペースの鈍化観測を受けて、11月の大統領選前の水準まで下落。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

---

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。  
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる  
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。  
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により  
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)  
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp